

平成29年度 第3回

景況調査報告書

－ 目 次 －

1. 調査概要	1
2. 調査結果	2
(1) 全産業の景況	2
(2) 各産業の景況	4
1) 製造業の景況	4
2) 建設業の景況	6
3) 小売業の景況	8
4) 卸売業の景況	10
5) サービス業の景況	12

広島安芸商工会

府中町商工会

広島東商工会

1. 調査概要

(1) 調査目的

広島安芸地域の事業所の景気動向を把握し、事業者の持続的な発展や地域経済の活性化を図るための施策検討の資料として活用する。

(2) 調査方法

1) 調査対象

3 商工会地域（広島安芸商工会、府中町商工会、広島東商工会）の事業所 144 社

2) 調査方法

郵送による配布・回収

3) 調査対象期間

平成 30 年 1 月 9 日～1 月 25 日 ※回答の基準は平成 29 年 10 月～12 月を対象とする

4) 有効回収数

113 社（回収率：78.5%）

(3) 回収結果





1) 産業別構成

	製造業	建設業	小売業	卸売業	サービス業	合計
回収数	13	30	25	3	42	113
構成比(%)	11.5	26.5	22.1	2.7	37.2	

(小数点第 2 位以下四捨五入)

(4) 報告書の見方

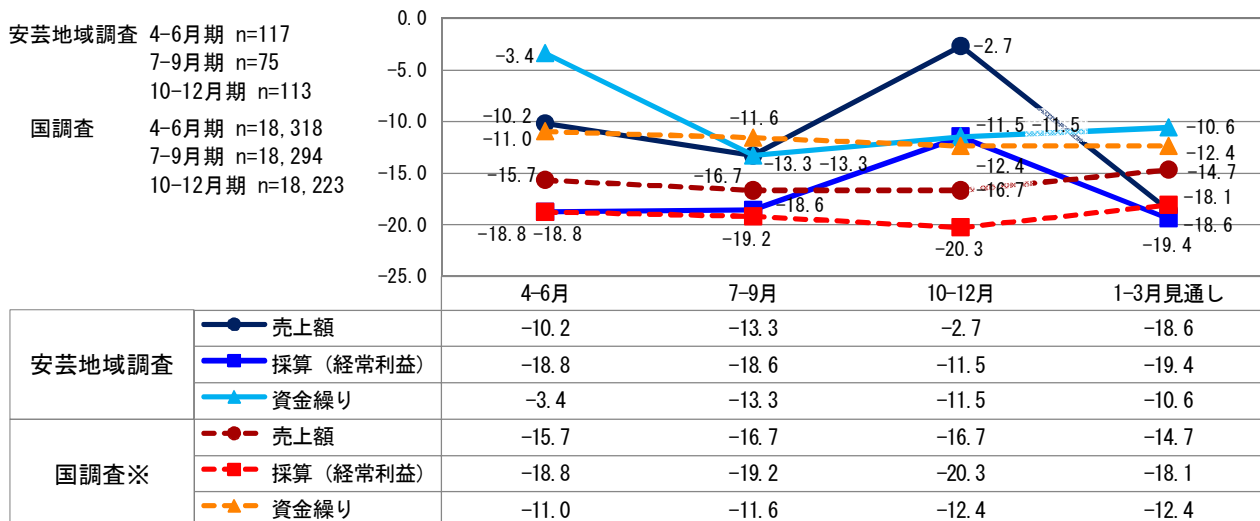
- 1) 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比 (%) で示してある。これらの数値は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が 100.0% とならない場合がある。
- 2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0% を超えることがある。
- 3) 報告書中の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。
- 4) 文字数が多い選択肢については、意味を損なわない程度に選択肢を省略しているものがある。
- 5) 図表中の「n」は number of cases の略で、回答者総数または分類別の回答者数を示す。各比率は n を 100% として算出している。
- 6) 報告書の中の [DI 値] とあるのは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転、上昇）企業割合から、減少（悪化、低下）企業割合を差し引いた値を示すものである。

天気図の見方					
DI 値	100.0～30.1	30.0～10.1	10.0～-10.0	-10.1～-30.0	-30.1～-100.0
表示					

2. 調査結果

(1) 全産業の景況

【図 全産業の景況感（国調査比較）】



※国調査：中小企業庁 第148回中小企業景況調査(2017年4-6月期)
 第149回中小企業景況調査(2017年7-9月期)
 第150回中小企業景況調査(2017年10-12月期)

① 景況感（前年同期比）

安芸地域全産業の景況感は、今期売上額 DI 値が-2.7、前期（-13.3）比で 10.6 ポイントマイナス幅が縮小している。採算（経常利益）DI 値が-11.5、前期（-18.6）比で 7.1 ポイントマイナス幅が縮小している。資金繰り DI 値が-11.5、前期（-13.3）比で 1.8 ポイントマイナス幅が縮小している。

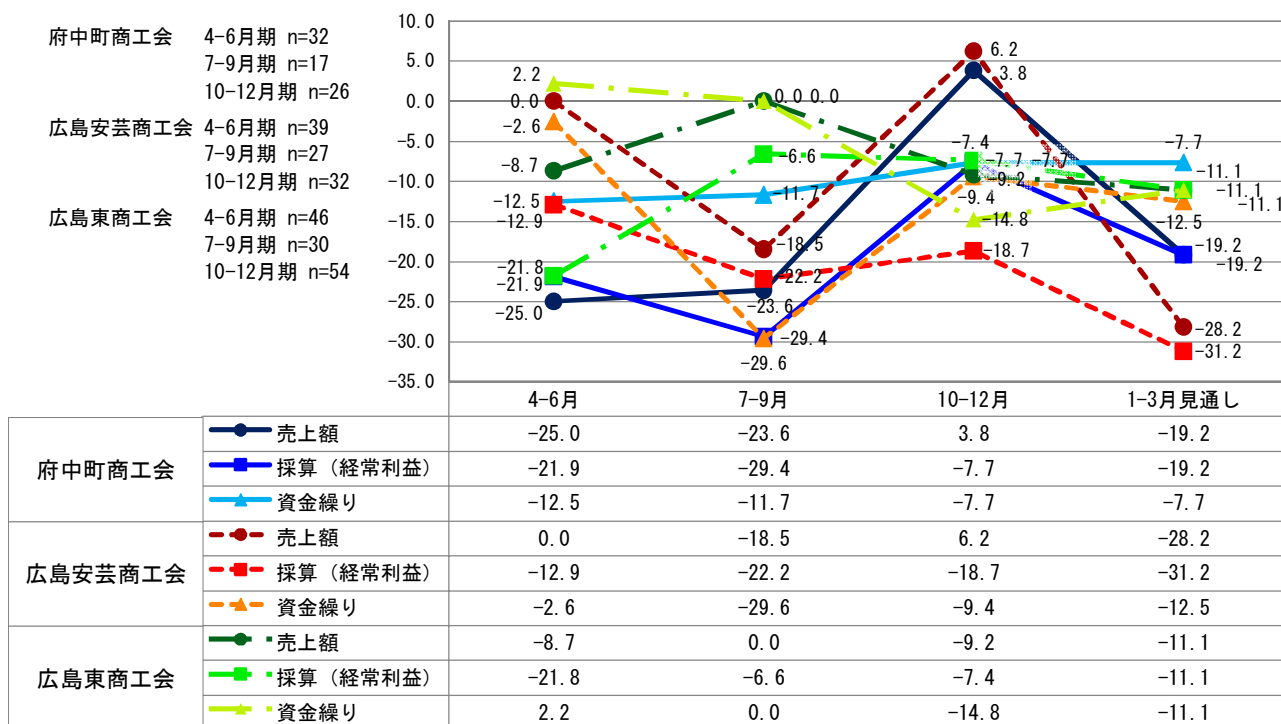
前年同期比の売上額について、半数以上の事業所が「不変」または「減少」と回答している。「増加」と回答している事業所は 38 社で、全体の 33.6%となっているが、採算（経常利益）については「好転」との回答が 23 社となっており、実際に利益が確保できているのは 20%程度となっている状況である。

国調査と比較すると、売上額 DI 値は国調査（-16.7）を 14.0 ポイント、採算（経常利益）DI 値は国調査（-20.3）を 8.8 ポイント、資金繰り DI 値は国調査（-12.4）を 0.9 ポイント上回っている。

② 来期の見通し（前年同期比）

今期と比較すると、資金繰り DI 値は 0.9 ポイントの改善と見込んでいるが、売上額 DI 値は 15.9 ポイント、採算（経常利益）DI 値は 7.9 ポイント悪化する見通しとなっている。

【図 全産業の景況感（3商工会比較）】



① 景況感（前年同期比）

府中町商工会の景況感は、今期売上額 DI 値が 3.8、採算（経常利益）DI 値、資金繰り DI 値がともに-7.7となっている。

広島安芸商工会の景況感は、今期売上額 DI 値が 6.2、採算（経常利益）DI 値が-18.7、資金繰り DI 値が-9.4となっている。

広島東商工会の景況感は、今期売上額 DI 値が-9.2、採算（経常利益）DI 値が-7.4、資金繰り DI 値が-14.8となっている。

3商工会を比較すると、府中町商工会、広島安芸商工会では、売上額 DI がマイナス値からプラス値へ大幅に回復しているが、広島東商工会では悪化している。

採算（経常利益）DI 値、資金繰り DI 値では、全ての商工会でマイナス値となっているが、府中町商工会、広島安芸商工会ではマイナス幅が減少している。

② 来期の見通し（前年同期比）

府中町商工会では今期の景況感と比較すると、売上額 DI 値は 23.0 ポイント、採算（経常利益）DI 値は 11.5 ポイント悪化する見通しとなっている。

広島安芸商工会では今期の景況感と比較すると、売上額 DI 値は 34.4 ポイント、採算（経常利益）DI 値は 12.5 ポイント、資金繰り DI 値は 3.1 ポイント悪化する見通しとなっている。

広島東商工会では今期の景況感と比較すると、売上額 DI 値は 1.9 ポイント、採算（経常利益）DI 値は 3.7 ポイント悪化する見通しとなっている。また、資金繰り DI 値は 3.7 ポイントの改善と見込んでいる。












3商工会の来期の見通しを比較すると、売上額 DI 値では、広島安芸商工会が府中町商工会、広島東商工会を大きく下回り-28.2となっている。

採算（経常利益）DI 値では、広島安芸商工会が府中町商工会、広島東商工会を大きく下回り-31.2となっている。

資金繰り DI 値では、すべての商工会でマイナス値となっている。

(2) 各産業の景況

1) 製造業の景況

	今期の景況	来期の見通し	
売上額			 DI 値 +30.1～
採算			 DI 値 +10.1～+30.0
資金繰り			 DI 値 +10.0～-10.0
			 DI 値 -10.1～-30.0
			 DI 値 -30.1～

① 景況感（前年同期比）

製造業の景況感は、今期売上（加工）額 DI 値が 23.1、前期（-25.0）比で 48.1 ポイント、資金繰り DI 値が 0.0、前期（-12.5）比で 12.5 ポイント改善している。一方、採算（経常利益）DI 値が-7.7、前期（0.0）比で 7.7 ポイントマイナスとなっている。

国調査と比較すると、売上（加工）額 DI 値は国調査（-4.7）を 27.8 ポイント、採算（経常利益）DI 値は国調査（-12.0）を 4.3 ポイント、資金繰り DI 値は国調査（-8.0）を 8.0 ポイント上回っている。

② 来期の見通し（前年同期比）

今期と比較すると、売上（加工）額 DI 値は 30.8 ポイント、採算（経常利益）DI 値は 15.4 ポイント、資金繰り DI 値は 7.7 ポイント悪化する見通しとなっている。

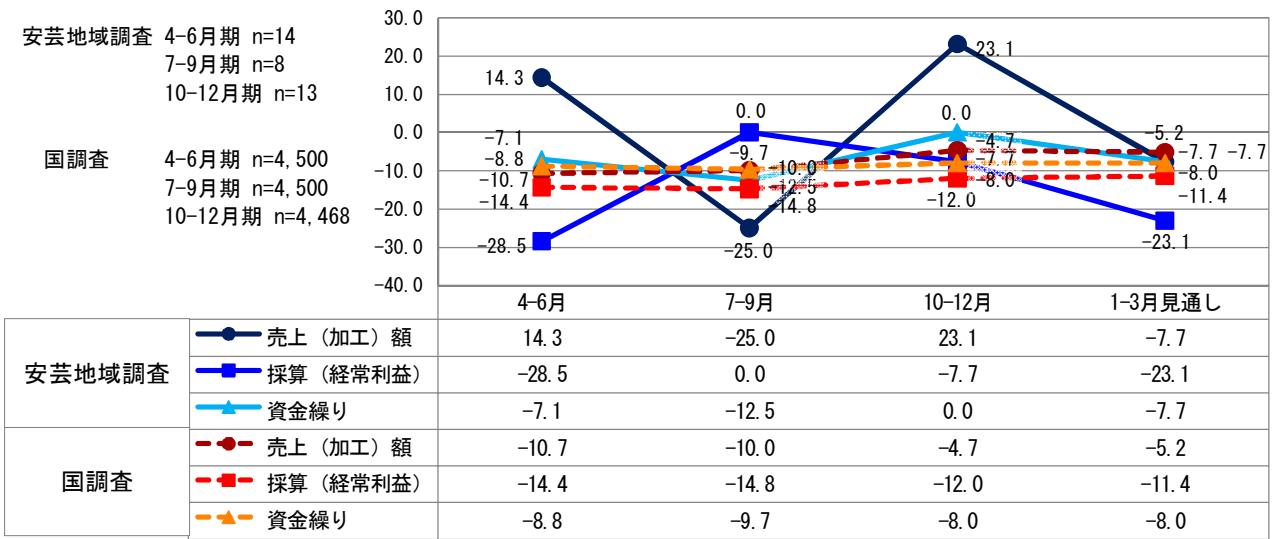
③ 新規設備投資

今期は 6 社（46.2%）が実施しており、内訳は「生産設備」、「付帯設備」（ともに 3 社）、「車両・運搬具」（1 社）となっている。来期設備投資について、3 社（23.1%）が計画しており、内訳は「生産設備」（3 社）、「車両・運搬具」（2 社）、「工場建物」、「付帯設備」、「OA 機器」（いずれも 1 社）を予定している。

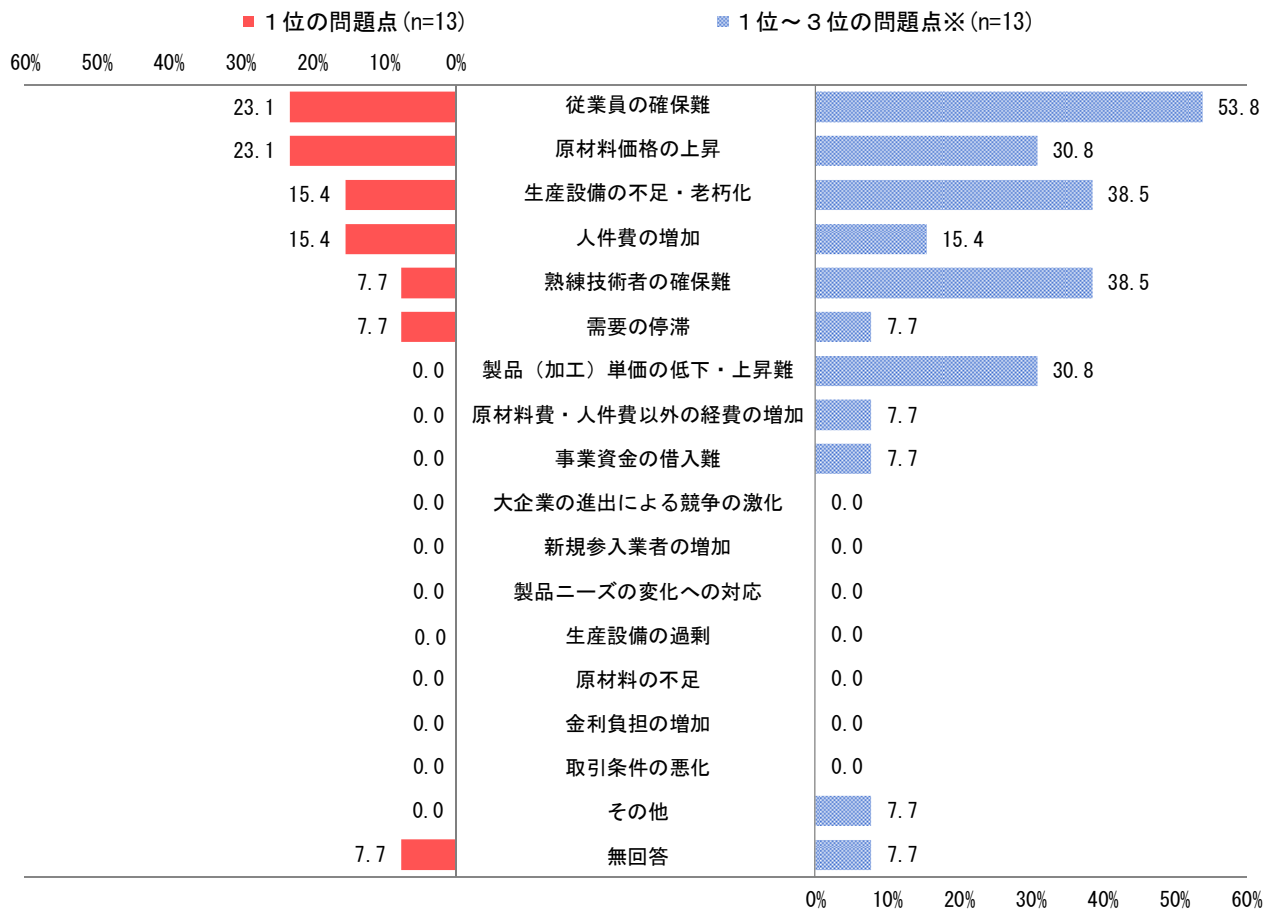
④ 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、「従業員の確保難」、「原材料価格の上昇」（ともに 3 社）、「生産設備の不足・老朽化」、「人件費の増加」（ともに 2 社）などが 1 番の問題点として挙げられている。問題点の 1 位～3 位をあわせて集計すると、製造業の 5 割以上が「従業員の確保難」と回答している。自由意見でも「人材を確保したいがなかなか応募が来ず、今以上の受注が取りづらくなる」、「仕事量が 10 月から 12 月の 3 ヶ月間に集中する傾向があり、製造量や人員不足に悩まされる」との意見があり、受注量に対して生産体制が追いつかない状況となっていることが伺える。

【図 製造業の景況感（国調査比較）】














【図 製造業の経営上の問題点】



※ 1位～3位の回答をあわせて集計

2) 建設業の景況

	今期の景況	来期の見通し	
完成工事額			 DI 値 +30.1～
採算			 DI 値 +10.1～+30.0
資金繰り			 DI 値 +10.0～-10.0
			 DI 値 -10.1～-30.0
			 DI 値 -30.1～

① 景況感（前年同期比）

建設業の景況感は、今期完成工事（請負工事）額 DI 値が 10.0、前期（-16.7）比で 26.7 ポイント、採算（経常利益）DI 値が-6.7、前期（-22.2）比で 15.5 ポイント、資金繰り DI 値が-10.0、前期（-27.8）比で 17.8 ポイント改善している。建設業では第 2 回調査と比較して、全体的に景況感が好転している。

国調査と比較すると、完成工事（請負工事）額 DI 値は国調査（-7.0）を 17.0 ポイント、採算（経常利益）DI 値は国調査（-11.3）を 4.6 ポイント上回っている。一方、資金繰り DI 値は国調査（-2.6）を 7.4 ポイント下回っている。

② 来期の見通し（前年同期比）

今期と比較すると、完成工事（請負工事）額 DI 値は 6.7 ポイント、採算（経常利益）DI 値は 10.0 ポイント、資金繰り DI 値は 6.7 ポイント悪化する見通しとなっている。

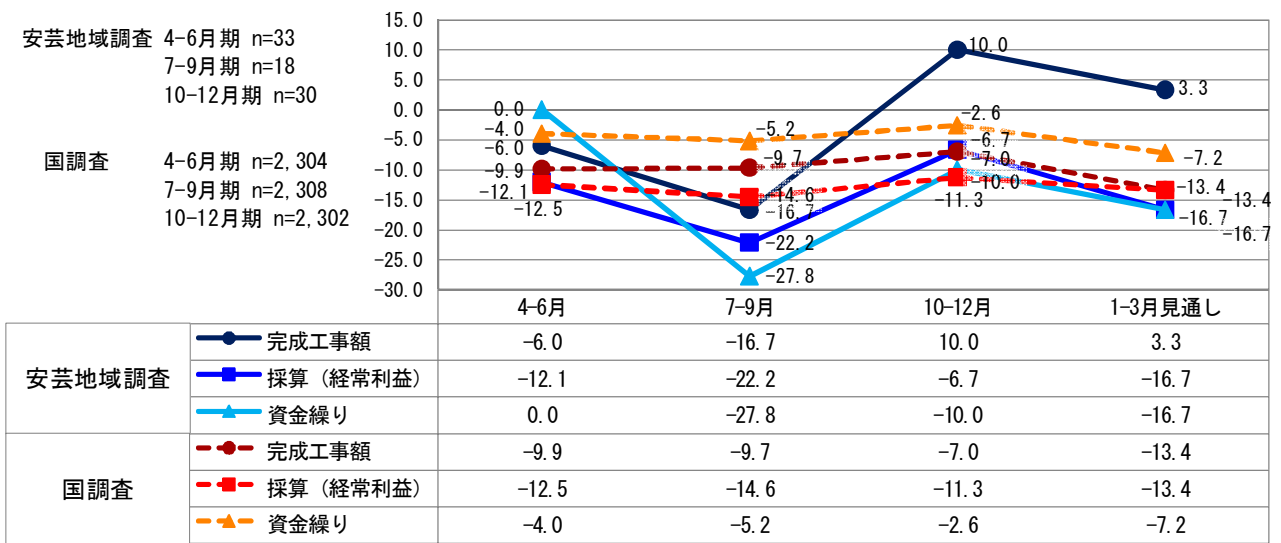
③ 新規設備投資

今期は 9 社（30.0%）が実施しており、内訳は「車両・運搬具」（5 社）、「OA 機器」（3 社）、「土地」、「建物」（ともに 2 社）、「建設機械」、「福利厚生施設」（ともに 1 社）となっている。来期設備投資について、5 社（16.7%）が計画しており、内訳は「建設機械」（2 社）、「OA 機器」（1 社）を予定している。

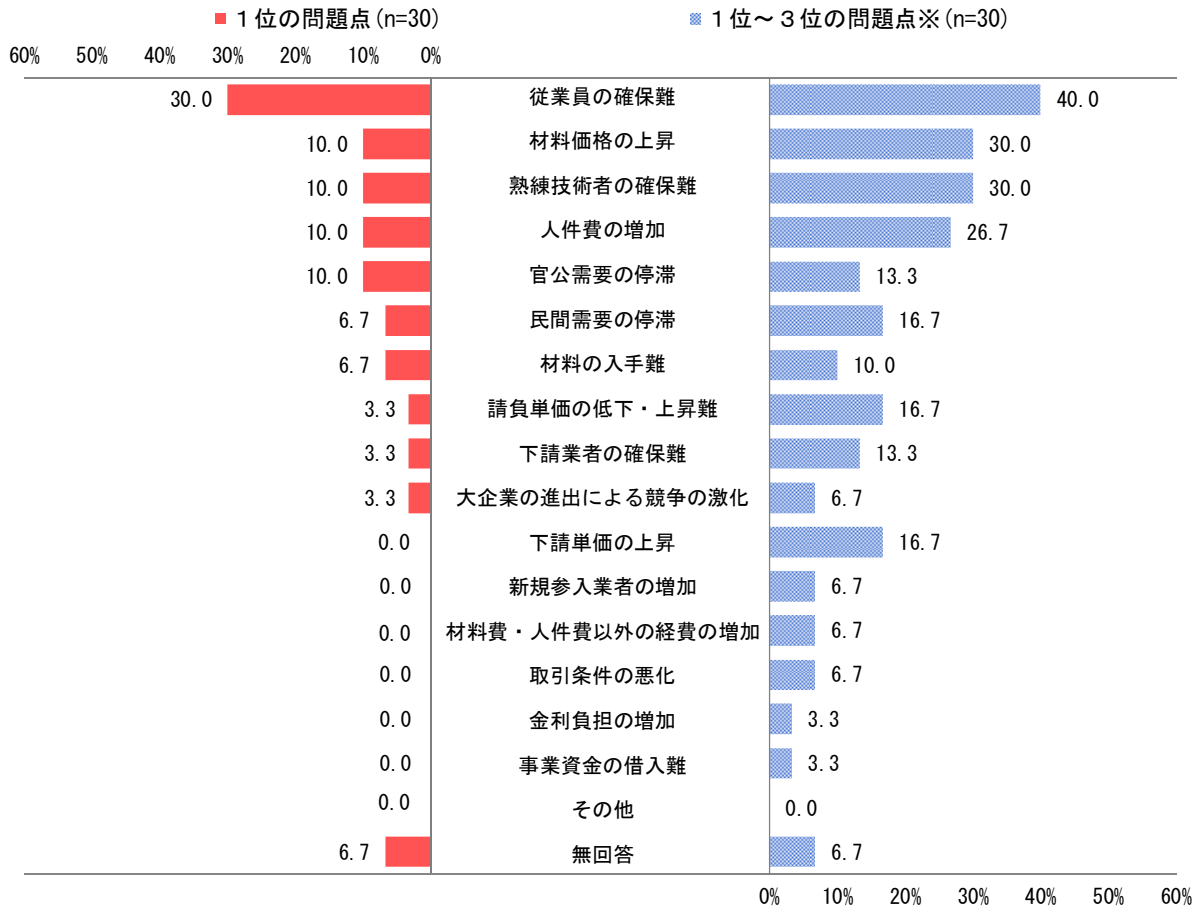
④ 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、「従業員の確保難」（9 社）、「材料価格の上昇」、「熟練技術者の確保難」、「人件費の増加」、「官公需要の停滞」（いずれも 3 社）などが 1 番の問題点として挙げられている。問題点の 1 位～3 位をあわせて集計すると、建設業の 4 割が「従業員の確保難」と回答しており、自由意見でも「仕事の引き合いと現場は増えたが、人材不足」との意見が挙がっている。従業員（含臨時・パート）の調査結果については、今期の状況、来期の見通しとともに「不変」との回答が 7 割以上となっており、第 1 回調査から続く慢性的な人手不足が今後も大きな課題となると考えられる。

【図 建設業の景況感（国調査比較）】














【図 建設業の経営上の問題点】



※ 1位～3位の回答をあわせて集計

3) 小売業の景況

	今期の景況	来期の見通し	
売上額			 DI 値 +30.1～
採算			 DI 値 +10.1～+30.0
資金繰り			 DI 値 +10.0～-10.0
			 DI 値 -10.1～-30.0
			 DI 値 -30.1～

① 景況感（前年同期比）

小売業の景況感は、今期売上額 DI 値が 0.0、前期 (-17.7) 比で 17.7 ポイント、採算（経常利益）DI 値が -12.0、前期 (-23.6) 比で 11.6 ポイントマイナス値が改善している。また、資金繰り DI 値が -12.0、前期 (0.0) 比で 12.0 ポイントマイナスとなっている。

国調査と比較すると、売上額 DI 値は国調査 (-35.2) を 35.2 ポイント、採算（経常利益）DI 値は国調査 (-33.7) を 21.7 ポイント、資金繰り DI 値は国調査 (-23.1) を 11.1 ポイント上回っている。

② 来期の見通し（前年同期比）

今期と比較すると、売上額 DI 値は 36.0 ポイント、採算（経常利益）DI 値は 24.0 ポイント悪化する見通しとなっている。

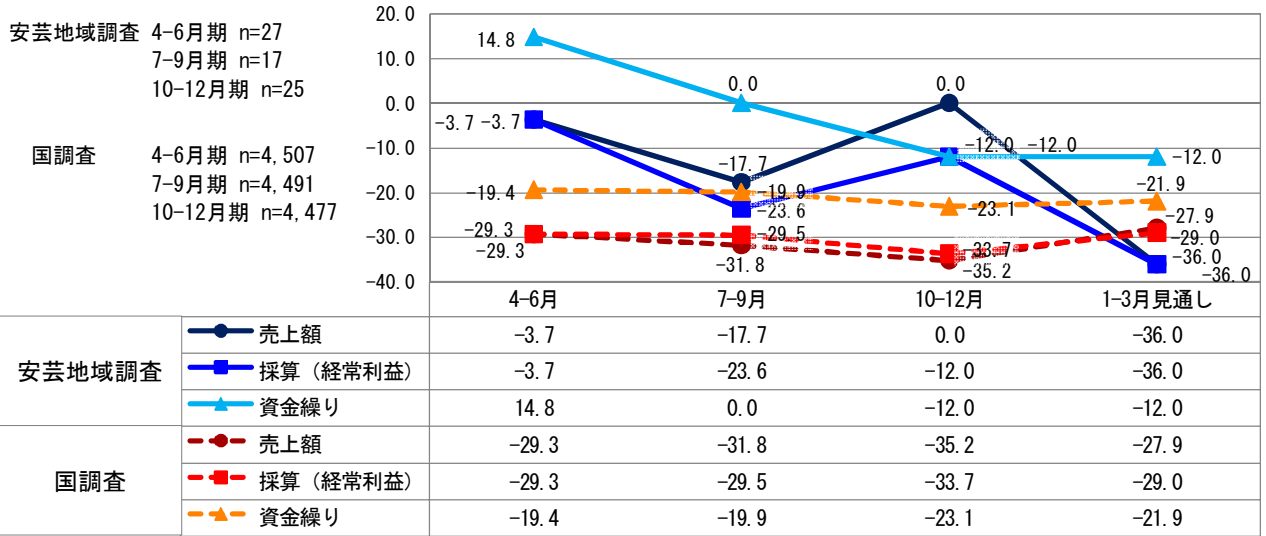
③ 新規設備投資

今期は 8 社 (32.0%) が実施しており、内訳は「車両・運搬具」(4 社)、「OA 機器」(2 社)、「店舗」(1 社) となっている。来期設備投資について、8 社 (32.0%) が計画しており、内訳は「車両・運搬具」(3 社)、「土地」、「店舗」、「販売設備」、「OA 機器」(いずれも 1 社) を予定している。

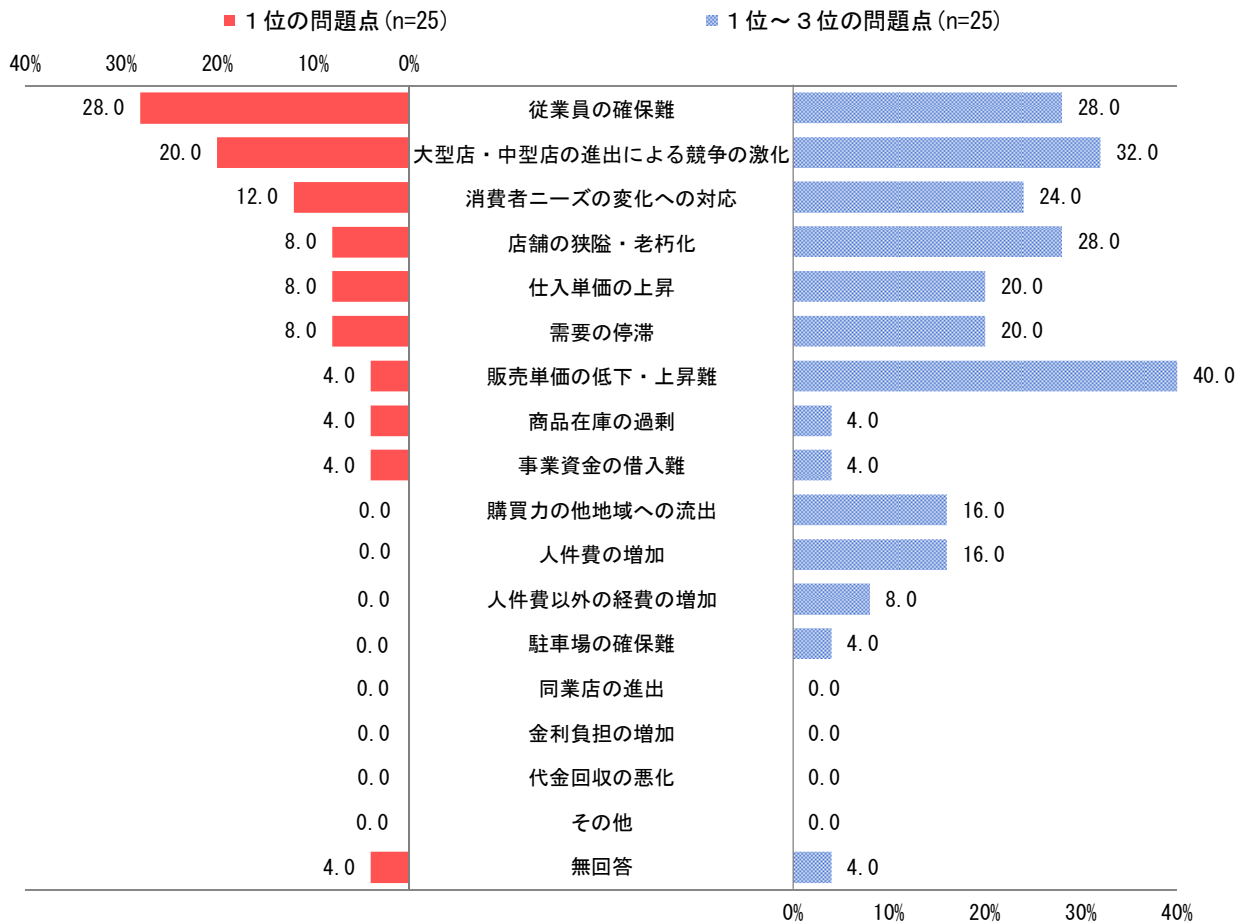
④ 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、「従業員の確保難」(7 社)、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(5 社) などが 1 番の問題点として挙げられている。問題点の 1 位～3 位をあわせて集計すると、「販売単価の低下・上昇難」(10 社)、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(8 社) の外部環境の変化が上位となっており、次いで「従業員の確保難」、「店舗の狭隘・老朽化」(ともに 7 社) などの内部要因が挙げられている。外部環境については、経済産業省の特定サービス産業動態統計調査で平成 29 年 1 月から 6 月期の小売業販売額は前年比で増加しているが、単価が低下しているため、業界全体の傾向として価格競争が激化しているものと想定される。

【図 小売業の景況感（国調査比較）】














【図 小売業の経営上の問題点】



※ 1位～3位の回答をあわせて集計

4) 卸売業の景況

	今期の景況	来期の見通し	
売上額			 DI 値 +30.1～
採算			 DI 値 +10.1～+30.0  DI 値 +10.0～-10.0
資金繰り			 DI 値 -10.1～-30.0  DI 値 -30.1～

① 景況感（前年同期比）

卸売業の景況感は、今期売上額 DI 値が-100.0、前期（100.0）比で 200 ポイントマイナス、採算（経常利益）DI 値が-33.4、前期（100.0）比で 133.4 ポイントマイナス、資金繰り DI 値が-33.3、前期（50.0）比で 83.3 ポイントマイナスとなっており、全体的に景況感が悪化している。

国調査と比較すると、売上額 DI 値は国調査（-14.7）を 85.3 ポイント、採算（経常利益）DI 値は国調査（-14.8）を 18.6 ポイント、資金繰り DI 値は国調査（-5.5）を 27.8 ポイント下回っている。

② 来期の見通し（前年同期比）

今期と比較すると、売上額 DI 値は 33.3 ポイント、採算（経常利益）DI 値は 66.8 ポイント、資金繰り DI 値は 66.6 ポイント改善する見通しとなっている。

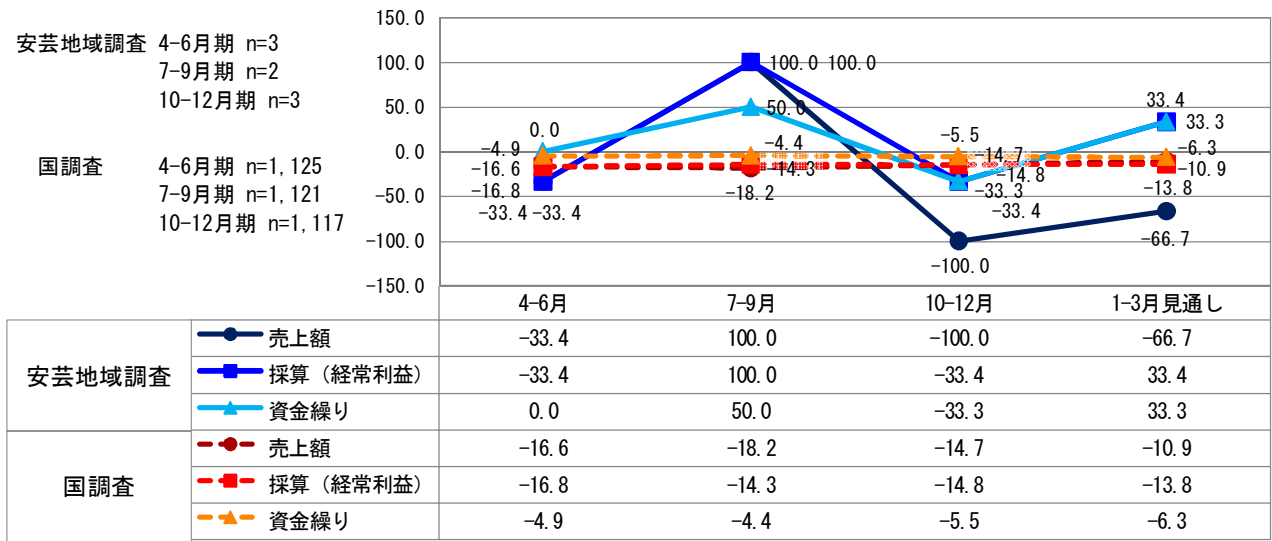
③ 新規設備投資

今期は 1 社（33.3%）が実施しており、内訳は「倉庫」（1 社）となっている。来期設備投資はいずれの企業も予定していない。

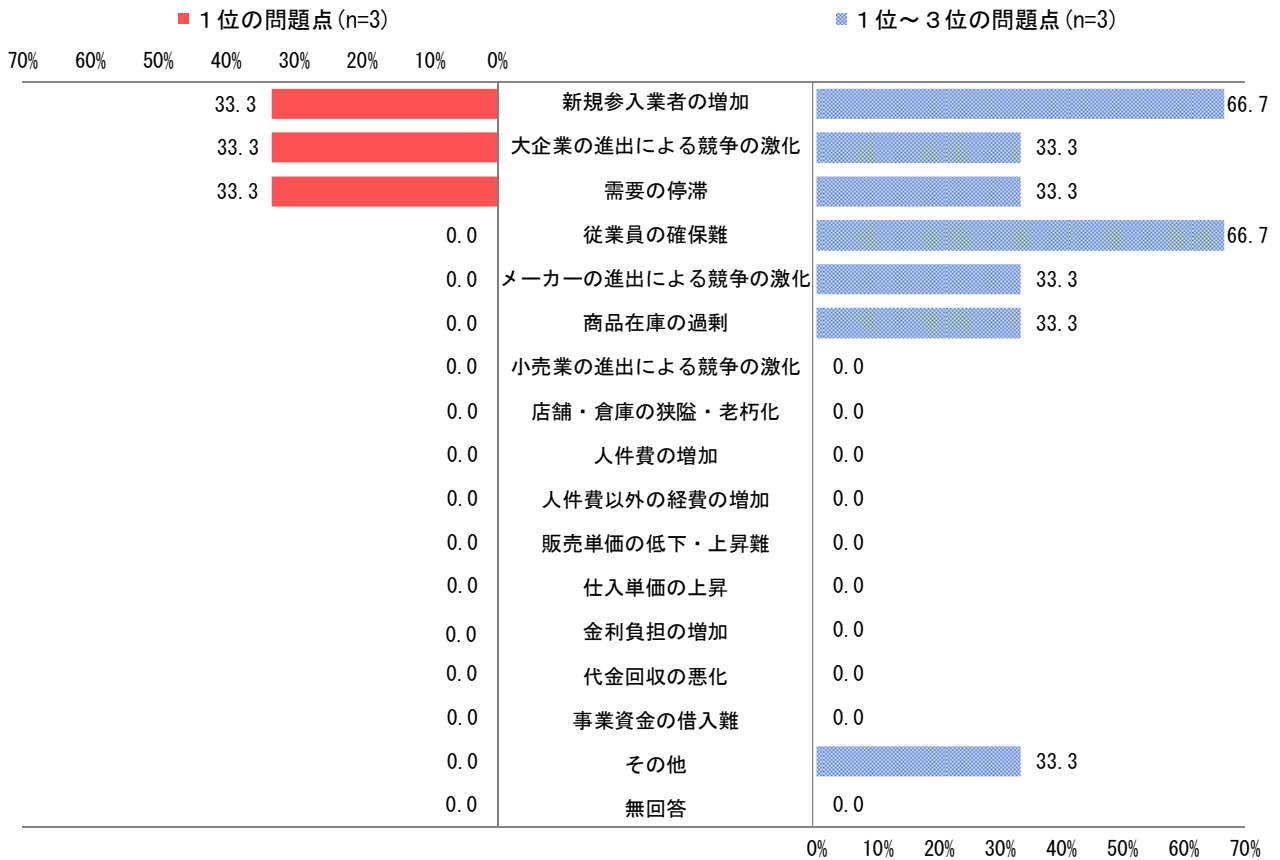
④ 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、「新規参入業者の増加」、「大企業の進出による競争の激化」、「需要の停滞」（いずれも 1 社）が 1 番の問題点として挙がっている。第 2 回調査では「店舗・倉庫の狭隘・老朽化」や「従業員の確保難」など内部環境の問題点が上位だったのに対し、今回調査では外部環境の変化が経営に影響している状況である。問題点の 1 位～3 位をあわせて集計すると、「新規参入業者の増加」と並んで「従業員の確保難」（ともに 2 社）などが挙がっている。

【図 卸売業の景況感（国調査比較）】









【図 卸売業の経営上の問題点】



※ 1位～3位の回答をあわせて集計

5) サービス業の景況

	今期の景況	来期の見通し	
売上額			☀ DI 値 +30.1～
採算			☀ DI 値 +10.1～+30.0
資金繰り			☁ DI 値 +10.0～-10.0
			☂ DI 値 -10.1～-30.0
			☔ DI 値 -30.1～

① 景況感（前年同期比）

サービス業の景況感は、今期売上（収入）額 DI 値が-14.2、前期（-13.3）比で 0.9 ポイントマイナス幅が拡大している。また、採算（経常利益）DI 値が-14.3、前期（-26.7）比で 12.4 ポイント、資金繰り DI 値が-14.3、前期（-16.6）比で 2.3 ポイントマイナス幅が縮小している。サービス業全体の景況感はマイナス値が続いている状況だが、自由意見では「安定した業況である」、「相談・依頼が急増している」などの意見も挙がっており業況が好転している店舗もみられる。

国調査と比較すると、売上（収入）額 DI 値は国調査（-15.8）を 1.6 ポイント、採算（経常利益）DI 値は国調査（-20.9）を 6.6 ポイント上回っている。一方、資金繰り DI 値は国調査（-12.6）を 1.7 ポイント下回っている。

② 来期の見通し（前年同期比）

今期と比較すると、売上（収入）額 DI 値は 9.7 ポイント悪化する見通しとなっている。一方、資金繰り DI 値は 4.8 ポイントの改善と見込んでいるものの、引き続きマイナス値の見通しとなっている。

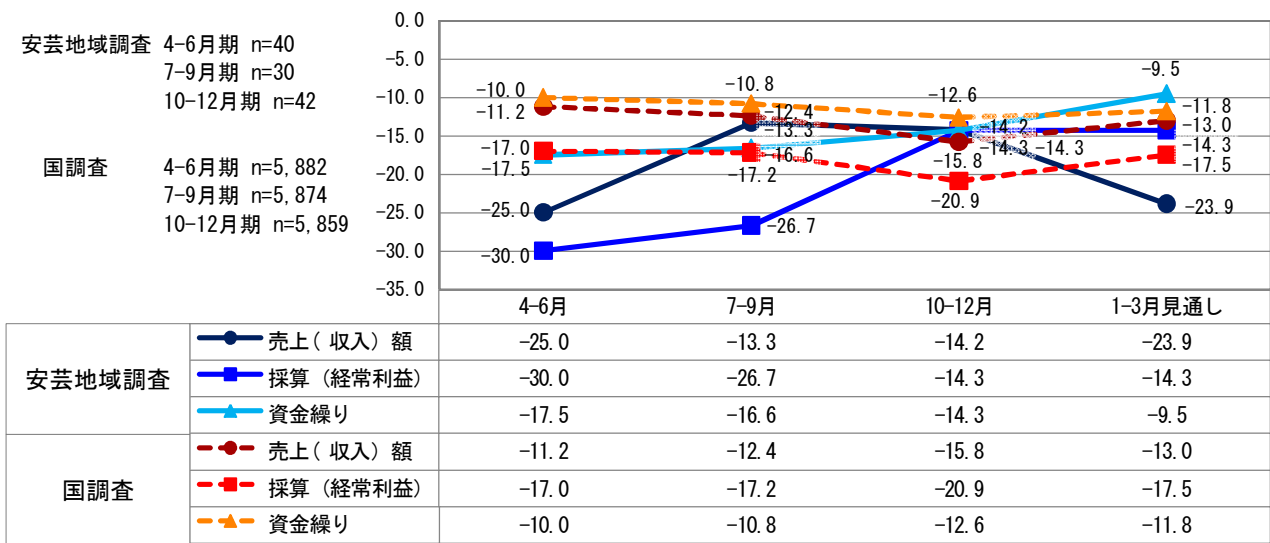
③ 新規設備投資

今期は 5 社（11.9%）が実施しており、内訳は「建物」、「サービス設備」、「車両・運搬具」、「付帯施設」、「OA 機器」（いずれも 1 社）となっている。来期設備投資について、7 社（16.7%）が計画しており、内訳は「建物」（4 社）、「サービス設備」（3 社）、「土地」、「車両・運搬具」、「OA 機器」（いずれも 2 社）、「付帯施設」（1 社）を予定している。

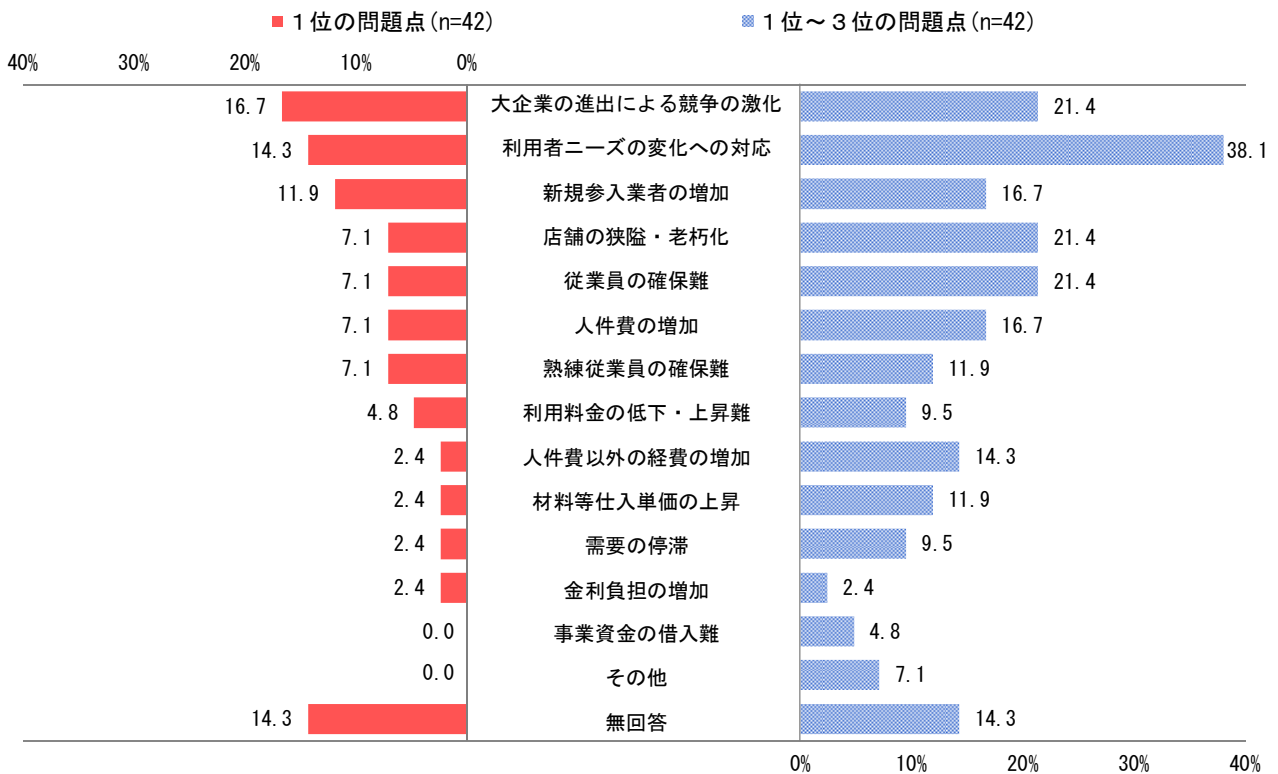
④ 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、「大企業の進出による競争の激化」（7 社）、「利用者ニーズの変化への対応」（6 社）、「新規参入業者の増加」（5 社）などが 1 番の問題点として挙げられており、前回調査に引き続き、外部環境の変化が経営に大きく影響している状況である。問題点の 1 位～3 位をあわせて集計すると、「利用者ニーズの変化への対応」（16 社）、「大企業の進出による競争の激化」、「店舗の狭隘・老朽化」、「従業員の確保難」（いずれも 9 社）、「新規参入業者の増加」、「人件費の増加」（ともに 7 社）などが挙げられている。

【図 サービス業の景況感（国調査比較）】



【図 サービス業の経営上の問題点（国調査比較）】



※ 1位～3位の回答をあわせて集計